

# 小・中学校の学力は概ね定着

教育指導課指導係 0824-731184

平成21年度

## 庄原市小・中学校一斉学力調査結果から

**平** 成22年1月、市内小・中学校の全児童生徒を対象に、庄原市小・中学校一斉学力調査を行いました。

この調査は、個々の児童生徒の学力がどの程度定着しているかを客観的に分析し、教職員が行う授業の改善を図るために毎年取り組んでいるものです。国や広島県の調査では、国語、算数・数学、英語のみが実施されていますが、本市では、社会や理科についても実施しています。



(単位:%)

		国語	社会	算数	理科	
小学校	第1学年	庄原市正答率	85.7		90.7	
		全国正答率	83.7		88.9	
	第2学年	庄原市正答率	87.3		83.8	
		全国正答率	86.3		82.0	
	第3学年	庄原市正答率	73.3	73.1	71.4	81.6
		全国正答率	69.4	74.2	72.4	80.8
	第4学年	庄原市正答率	72.6	76.8	77.6	72.6
		全国正答率	68.4	77.8	76.5	73.5
	第5学年	庄原市正答率	73.9	73.6	75.6	80.7
		全国正答率	71.1	70.7	74.1	79.4
	第6学年	庄原市正答率	79.9	71.7	74.0	75.4
		全国正答率	77.6	70.3	74.2	72.4
基礎 (全学年平均)	庄原市正答率	83.2	77.2	82.2	80.5	
	全国正答率	80.0	76.3	81.5	78.8	
活用 (全学年平均)	庄原市正答率	53.0	55.4	60.9	66.1	
	全国正答率	52.7	56.9	58.6	67.7	

		国語	社会	数学	理科	英語	
中学校	第1学年	庄原市正答率	72.7	62.1	59.7	51.7	74.7
		全国正答率	70.5	64.0	65.9	53.3	74.3
	第2学年	庄原市正答率	70.3	61.1	56.9	63.5	61.8
		全国正答率	69.6	65.7	60.1	67.0	62.2
	第3学年	庄原市正答率	71.4	56.6	54.8	58.8	64.2
		全国正答率	72.7	62.3	57.4	59.8	63.1
	基礎 (全学年平均)	庄原市正答率	74.4	62.6	60.4	60.0	71.5
		全国正答率	73.5	67.0	64.5	61.6	71.9
	活用 (全学年平均)	庄原市正答率	58.9	44.7	41.0	48.5	52.4
		全国正答率	59.9	46.9	44.4	52.9	49.6

この調査から、児童生徒の「基礎」にかかわる内容だけではなく、「思考力」「判断力」「表現力」などの「活用」にかかわる学習内容が、個々の児童生徒に定着しているのかどうかを把握し分析することができず。

調査結果一覧のとおり、小・中学校の学力は概ね定着していることが分かりました。とりわけ、小学校の国語ですべての学年が全国正答率を上回りました。また、「基礎」にかかわる内容に目を向けると、小学校では概ね定着しており、特に低学年では十分定着していました。中学校でも、「基礎」にかかわる内容は概ね定着しています。

課題としては、小・中学校とも、「活用」にかかわる内容の定着を図る必要があることが分かりました。例えば、小学校算数において、かけ算の式に見合った文章をつくる設問があります。「りんご」を文章に組み入れることが条件なのに、「りんご」を組み入れ忘れたり、まったく違う「なし」と書いたりしてしまったり、計算式の解答は出せても式そのものの成り立ちを理解できなかつたり、なぜそうなるのか根拠や理由を説明するという設問でもうまく説明できない、というものです。各教科の知識などの基礎を身に付けることは大切なことですが、物事を理解する思考力や判断力、相手に適切に伝えるための表現力も身に付ける必要があります。



成果と課題について意見交換

**各**

小・中学校の教務主任が集まり、児童生徒一人一人の学力の定着と向上を図るために研修会を実施しました。3回目となる今回の研修会では、1月に実施した学力調査の結果や、各学校での取り組みなどをもとに意見交換を行いました。

「家庭学習の充実を図るために」と題した演習では、まず、家庭学習や読書の取り組み状況について、6月と1月に行った調査結果を比較・分析し、学校ごとの取り組みの成果と課題を

平成21年度

## 庄原市学力向上検討委員会第3回全体研修会から

明らかにしていきました。続いて、グループに分かれ、①家庭学習を充実させるために効果的だった取り組み②継続して取り組まなければならない課題③課題を克服するための改善策の3点を主眼に意見交換を行いました。

参加者から出された家庭学習の充実を図るための改善策は、主に次のようなものがありました。

- 学校と家庭とが連携し、日々の取り組みを継続しよう
- 小・中学校が連携し、家庭学習に対する見方や考え方を共有し合おう
- 授業とのつながりを意識した家庭学習の内容を考え、予習が次の学習につながる、明日の学習につながるものであるという見方や考え方を養おう
- 児童生徒の自主的な学習と、そのための学習ノートの工夫と活用を充実させよう

今後も、引き続き各種学力調査結果の分析を行ない、教職員を対象とした



庄原市研究主任研修会 庄原小学校5年生 算数授業風景